

## 第 1 章

### 調査研究概要

## 1-1. 調査研究概要

### (1) 農業法人選定の経過

平成 22 年度に取り組む本調査研究の業種選定にあたっては、平成 21 年度に有識者からなる生涯職業能力開発体系調査研究会において検討を行った。その結果、日本標準産業分類の中分類の業種にこだわらず、小分類レベルでの業種も対象とし、日本版デュアルシステム、実践型人材養成システム等や人材育成研究会に取り組む企業など、企業内における能力開発の計画や実施が活発化している業界団体、および政策的成長分野、雇用吸収力のある業種（林業、農業、自然エネルギーに関連する工事業、観光業、介護など）の業界団体を対象として、職業能力体系（モデルデータ）を整備することとした。

当該調査研究会の検討結果を受け実践型人材養成システム等に取り組む企業の状況や企業と求職者とのマッチングを支援する上で有効な「ジョブ・カード制度」の取組状況等の情報を収集した。その結果、平成 21 年度に引き続き農業に関する新たな職務分析の必要性がでてきたので、全国農業会議所・（社）日本農業法人協会と協議を行った。

同協会では、農業における雇用労働力の活用を円滑にするため、新規就農希望者（研修生）を雇用するための対策など、毎年積極的に取り組んでいることが分かった。

さらに、農業（野菜作農業(施設野菜)）における職業能力体系（モデルデータ）を整備することによって、平成 21 年度に実施した野菜作農業(露地野菜)の職務分析と合わせると、非常に効果的な人材育成システムが構築できるのではないかと提案をいただいた。ただし農業（野菜作農業）の分野は、作物の種類や栽培手法等によって作業内容が大きく異なるため、主要作物を絞り込んで、野菜作農業(施設野菜)の職務分析を実施することとした。

なお、農業（野菜作農業(施設野菜)）を営む農業法人の形態が、図表 1-1 に示すように範囲が広いことから、標準的なモデルデータとするため、農業生産法人を中心に取り組むこととした。

図表 1-1 農業法人の形態

農業法人	農業生産法人 (農地必要)	農事組合法人（2号法人）	
		会社法人	合名会社
			合資会社
			有限会社
	株式会社		
	一般農業法人 (農地不要)	農事組合法人（1号法人）	
		会社法人	合名会社
			合資会社
有限会社			
株式会社			

出典：秋田県農林政策課「法人化支援運動マニュアル～農業経営の法人化に向けて～」法人設立編

## (2) 野菜作農業とは

野菜作農業は、日本標準産業分類において、大分類A農業・林業、中分類 01 農業、小分類 011 耕種農業、細分類 0113 野菜作農業（きのこ類の栽培を含む）に位置づけられている。主として、果菜類（えだまめ，さやえんどう，とうもろこし等の未成熟子実を含む），葉茎菜類（はくさい，キャベツ，ねぎ等），根菜類（だいこん，にんじん，さといも等）を栽培し、出荷する事業所をいう。（図表 1-2）

日本標準産業分類では、野菜作農業として一つの括りであるが、野菜作農業の実態としては、露地野菜と施設野菜に大きく分かれることから、本調査研究においては、施設野菜の果菜類、葉茎菜類について取り扱うこととした。

図表 1-2 日本標準産業分類上の農業の位置づけ

【大分類:A(農業・林業) 中分類:01(農業)】

小分類	産業分類	細分類	業種
010	管理, 補助的経済活動を行う事業所	0100	主として管理事務を行う本社等
		0109	その他の管理, 補助的経済活動を行う事業所
011	耕種農業	0111・0112	米作・米作以外穀作農業
		0113	野菜作農業
		0114	果樹作農業
		0115	花き作農業
		0116	工芸農作物農業
		0117	ばれいしょ・かんしょ作農業
012	畜産農業	0121	酪農業
		0122	肉用牛生産業
		0123	養豚業
		0124	養鶏業
		0125	畜産類似業
		0126	養蚕農業
013	農業サービス業	0131	穀作サービス業
		0132	野菜作・果樹作サービス業
		0133	耕作、野菜作・果樹作以外の耕種サービス業
		0134	畜産サービス業

出典：総務省 統計局 日本標準産業分類

### (3) 施設野菜の特徴

昨年度、露地野菜の職務分析を行ったところであるが、作業部会における各委員からの意見や文献等から、同じ野菜を栽培するのであっても、露地野菜と施設野菜ではかなりの相違点があることが分かった。

詳細については、第4章で述べることとするが、主な特徴は以下のとおりである。

#### a. 栽培設備について

施設野菜では、ハウス内での栽培となることから、ハウスの建設、温湿度維持管理や改修等で大きな予算が必要となる。



天井からつるされたひもによって天井近くまで成長する。(写真提供:(株)Tedy)



直植えと高設で栽培するなど野菜の特徴やリスクヘッジも経営者の重要な判断である。(写真提供:(有)ストロベリーフィールズ)

また、露地野菜ではトラクター等の大型農業機械を用いて耕運作業等を行うが、施設野菜では、施設内の作業となるため大型の農業機械を使用することがほとんどなく、小型の耕運機で作業を行うことが多い。

ハウス内の栽培であるため、一定量の栄養(水・肥料)、二酸化炭素を供給するための設備や、成長を管理するための空調・暖房の設備などがあり、その他、



ハウス内のCO<sub>2</sub>濃度を高めるために設置されている装置。(写真提供:(有)ストロベリーフィールズ)



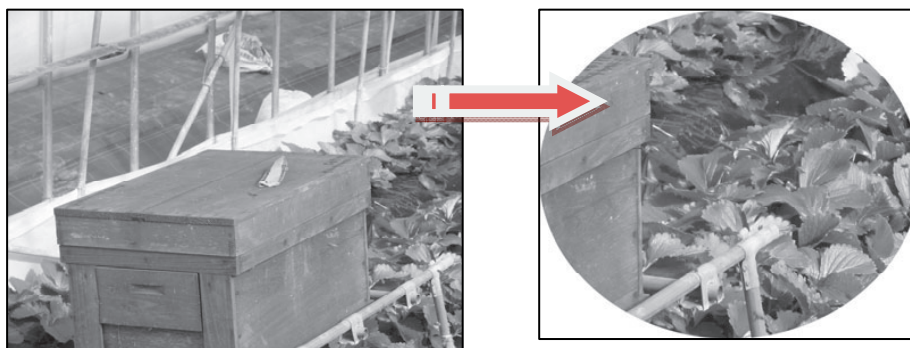
根は専用の栽培ベッドに植えられ、土は一切見当たらない。オンラインにより肥料と水が供給されるシステムとなっている。中央を走っているのは、台車用のレール。(写真提供:(株)Tedy)

果菜類のように茎が伸びる野菜の場合は、ハウスの天井までの上部空間を利用した栽培方法の器具や、手際よく間引きや防除作業をするとともに、温風または温水による室温の維持を行うため、畝間にパイプ兼レールを引かれているなど相違点がかかなりある。またハウス内外の除草対応等の作業においても相違点がかかなりある。

b. 栽培方法について

栽培方法も露地野菜と大きく異なる。施設野菜では、土を使わない養液栽培もおこなわれている。養液栽培では、専用の栽培ベッドに根を這わせ、コンピュータ制御によって水分や肥料を管理する。

また、受粉のためにハチを利用することが多い。



主に受粉用に活用されるハチ。一箱当たり 4,000～6,000 匹が入っている。  
(写真提供:(有)ストロベリーフィールズ)